

## ①教育活動の概要の補足

1. 指導目標： 社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について学習する。またその中で、英語でまとめた発表を活用して今後新しいメディアとどのような関係性を持ちうるのか、マナーやモラルについても考える。

### 2. 対応する学習指導要領の内容

情報 A 2 内容 (4) 情報機器の発達と生活の変化 イ、ウ

#### 2 内容 (4) 情報機器の発達と生活の変化

##### ア 情報機器の発達の歴史を理解する

情報機器の発達の歴史に沿って、情報機器の仕組みと特性を理解させる。

##### イ 情報化の進展が生活に及ぼす影響

情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。

##### ウ 情報社会への参加と情報技術の活用

個人が情報社会に参加する上でコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であること及び将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解させる。

### 3. 評価の観点

- ・番組や DVD の主旨を理解し、ワークシートに答える。
- ・グループ内で議論し、著作権を理解する。
- ・自分たちの住むまちのことについてデジタルストーリーを作成する。
- ・写真を撮るときや作品を作成するときに必ず著作権を意識する。
- ・自分の調べたことや考えをきちんと構成してデジタルストーリーを作成する。

### 4. アイディアとその効果

1. アイディア： 学校放送番組やケータイ・インターネットの歩き方」著作権編、誰でも作者になれる、だからこそみんなで権利を守ろうショートビデオ集 (一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構制作) DVD、) 5分でできる著作権教育 (CRIC) を活用して情報活用の育成を学年一斉に、誰でも同じ授業ができる

効果：共通のワークシートと Web 配信の番組や DVD 教材を活用して情報化社会の光と影に関わる見方や考え方を深める

2. アイディア：自分のすんでいるまちを発信するための作品を作ることにより情報スキルや伝える言葉への興味や関心を高める。

効果：社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について学習する。

3. アイディア：自分のまちの作品を海外に発信して、海外の生徒に意見をもらうことにより、自分達のまちのよさを改めて知るとともに語学や異文化への興味や関心を高める。

効果：海外とのネットワーク利用 (ビデオ会議や掲示板) の利便性について学習する。

## ②成果

- (1) 自分達が作るデジタル作品で、著作権の大切さを学ぶとともにその必要性を理解した。
- (2) 「調べる」→「考える」→「表現/創る」→「発信する」→「まとめる」→「行動する」といった複合的な“学びのプロセス”の中で、児童・生徒が豊かな学力を身につけた。
- (3) 校内・外、異年齢、地域社会、海外などとの“学び合い”から、相手の立場に立って考える力や、思いやりの心を持ち、人と人、社会とのつながりを実感した。
- (4) 情報科教員が、同じ内容で同じ授業を展開することができた。特に今まで教えにくかった「著作権」が DVD を活用することによって教えることができた。また教員も ICT 活用の能力を高めた。

### ③情報科の授業での取り組みの補足

1. 著作権に関する学習 デジタルストーリー作品作成の前に著作権に関する授業を実施する。ねらいとして、「どんなものにも著作権があることを理解する。」「著作者、著作権、著作物の意味を理解する。」「著作権を守らなければならない理由と具体的に著作権を侵害している例を知る。各自の課題として下記4つに関してまとめる。

- 1 著作権とは何でしょう。
- 2 著作物にはどのようなものがあるでしょう。
- 3 著作物を自由に利用できるケースについて調べましょう。
- 4 著作物を使用する際に許諾を得るにはどうしたらよいでしょう。

「放送番組」や DVD 教材から学ぶ。 学校放送番組（NHK教育「10min. ボックス情報.」）ケータイ・インターネットの歩き方」著作権編、誰でも作者になれる、だからこそみんなで権利を守ろうショートビデオ集（一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構制作）DVD）、5分でできる著作権教育（CRIC）の視聴をもとに、情報通信ネットワークを利用する上で必要となる、ルール・マナー・モラルについて理解を深める。番組は適宜、一時停止をして、必要に応じて通信の仕組み、電子メールの仕組み、著作権、情報通信ネットワークの仕組みに関して説明を加える。また他の有効なサイトも利用して、社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について学習する。番組に関しては、Web 配信の映像や図表を活用したわかりやすい教材を視聴しながらワークシートを活用して理解を深める。また、DVDに関しては指導案を作成して、それを共有フォルダにアップして、どの先生も使えるようにした。また板書例も作成して一助にしてもらった。（図1） 別添付ファイル 指導案 参照

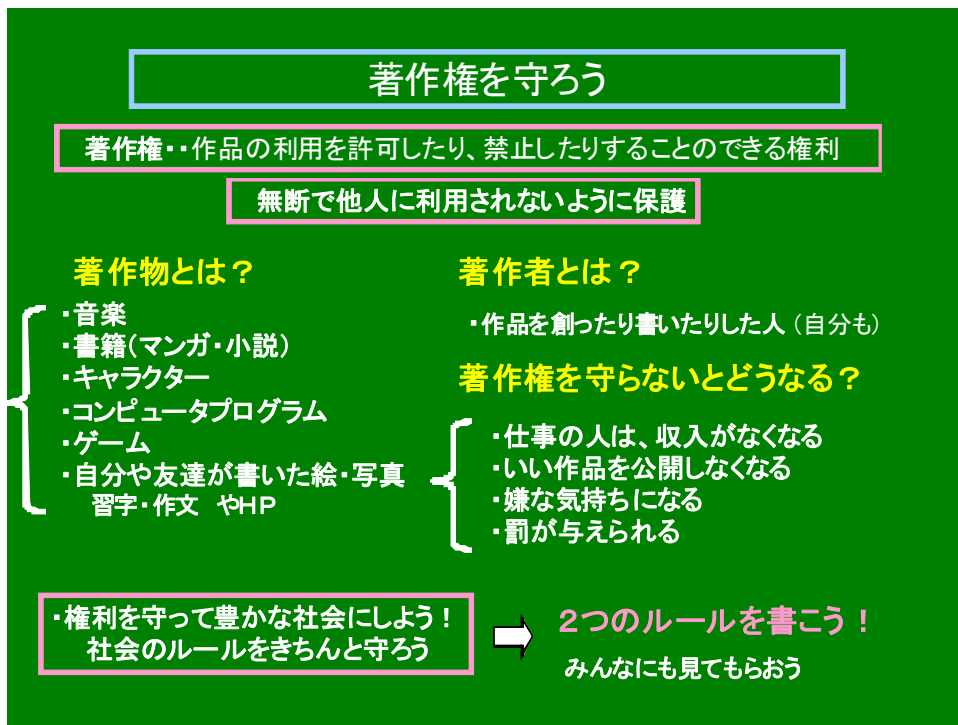


図1 著作権の授業 板書例

2. プレゼンテーション作成 これまでの番組から学んだことをふまえて「著作権」というテーマからで個人またはグループで焦点をしぼって自分の意見や考えをスライド4枚程度にまとめる。

3. 発表 作成したプレゼンテーションファイルを共有フォルダに提出する。小グループにわかれてグループごとで自分の意見や考えを発表する。聞き手は途中質問をしても構わない。番組だけではわかりにくい細かいところもプレゼンテーションを聞くことにより具体的でわかりやすくなる。プレゼンソフトで段階的に説明することにより、理解を深めることができる。

4. 著作権のことを踏まえて じぶんたちのまちを紹介するデジタルストーリー作品を作成する。

概要 表1 詳細 別添付ファイル 指導案参照

月	予定	学びのプロセス	内容	こんな力がつく
5月 ～11月	調べ学習/校外学習 写真を撮影など	「調べる」 「知る」 「考える」	<b>自分たちの暮らしている町のこと知っている？</b> 地域の文化や自然について調べる、体験する。伝えたいことを決め、写真を撮る。	・自分たちの住むまちへの理解を深め、見つめ直す力。
	スライドショーの作成	「表現/創る」	<b>一番伝えたいことは何かな？</b> 写真とナレーション（言葉）と音楽を組み合わせてスライドショーを作る。	・自分の考えをはっきり表現する力。 ・伝える相手と目的を意識して、より分かりやすく、より印象的で、より説得力を増すように伝える力。
	作品の相互評価	「発信する」	<b>他の人に発信しよう！</b> インターネットTV会議などを利用して他の参加校に発信し、相互評価を行う。「学び合い」	・相手意識を持ったコミュニケーション力。 ・他者の意見を聞く力。 ・他の地域の文化にも関心をもち、尊重することのできる力。
1月	作品をユネスコ協会のコンテストに応募			
2月	審査会			
3月	受賞作品をHPで発表			
1月～3月	活動発表会	「まとめる」	<b>学習したこと・活動を伝えよう！</b> 校内や地域で活動発表会を行う。	・プレゼンテーション力。
	地域活動	「行動する」	<b>自分たちにも何かできるかな？</b> 地域の人びとやメディアに働きかける。	・社会に働きかける力。 ・自発的・主体的に取り組む力。 ・人や地域社会とのつながりを大切に する力。

概要 表1

④海外へ発信

今回は、作成したデジタルストーリーを中国と台湾の生徒に送った。また、自分たちで作成したそれぞれの作品については、お互いにどのような工夫を行い、いかに思考したかを発表しあって相互の学びあいを行った。また国内の他校の事例も見させていただき、参考にさせていただいた。台湾とはビデオ会議を実施して情報交換を実施した。（今回沖縄県の高校も特別に入ってくれたので文化交流も実施した。）

(図2) 台湾・沖縄とのTV会議



(図3) 中国の高校生と奈良を実際に訪問



## ⑤ICT活用のポイント

- ・校内での情報科の教員の連携を図り、高2全クラスでNHK教育「10min. ボックス情報。」5分でできる著作権教育（CRIC）をもとに指導を行う。
- ・学年全体で実施するため、共通の番組利用ワークシートを作成し、違う教員でも同じ内容で授業を実施できるようにする。
- ・新入生説明会で保護者も含めての視聴
- ・番組の視聴をもとに、自分の考えをプレゼンソフトを使ってまとめ、発表する。
- ・相手に意見をわかりやすく伝える手段
- ・グループ発表しやすい効果的な資料の提示
- ・電子情報ボードによる効果的な発表
- ・教室の雰囲気—視線があがることによって教室の雰囲気がよくなる。
- ・TV会議ソフトを使って海外に英語で発信することにより—楽しみながら英語の学習に取り組む
- ・ICTを活用して意見交換をいれる—表現力を高めるとともに理解を深めることができた
- ・国内、国外の生徒とTV会議を通じて深い交流ができた。また合間にSNSサービスを活用してその補足を行った。

## ⑥今回の授業の効果

生徒たちは今までインターネットや携帯について学校では影の部分しかあまり習ったことがなかったようだが今回の番組を活用して影の部分以外に光の部分がたくさんあることを実感した。その上で現在の情報通信ネットワークを取り巻く危険や懸念などを知り、情報セキュリティの重要性を理解し、自ら情報を外部に発信する交流学习の基本を育むことができた。（ネットワーク利用で必要となる、ルール・マナー・モラルを理解し、交流活動に活用するネットワークリテラシーも育むことができた。）そのときに今回の一番の目的である一つの著作権についてもしっかりと考えることができた。何気なく自分たちのまちの写真を紹介するために撮った写真がいろいろな意味をもつ、それを勝手に活用すると問題になることがあるなど本当に身近な視点から著作権の理解につながった。また英語学習を取り入れたことにより教科の壁を越えた生徒たちが多く見受けられた。また今回忘れてはならないポイントとしてある程度どんな教員でも同じ授業をできるように教員のスキルアップもできた。もちろん大学の学生や外部の講師との交わりの中から、生徒も教員も情報活用の実践力を高めることができた。

## 生徒の感想

- ・「自分一人くらいは大丈夫」と考えない。
- ・世の中全体のことを考えないと有名な場所であってもそれがだめになる場合もある。
- ・一人一人が注意しながら楽しむことで、よりたくさん作品が生まれ、またそれを楽しむことができるようになり、豊かで文化的な社会を守っていくことができることを学んだ。
- ・著作権の学習を始めてから、自分の身の回りのものが社会につながっていることを強く感じました。
- ・写真を撮るときに「著作権」を意識するようになりました。
- ・神社や仏閣の著作権の話聞いたことがあったが、今回の授業を機会によく理解できた。
- ・自分たちの作品にも著作権がきちんとあることを改めて理解できた。
- ・DVDやCRICのホームページなどを活用してもらい、退屈せずに学べた。